

VML5 壁掛金具 取扱説明書

----- 重量 34kg 以下の薄型テレビの取り付けに適用 -----

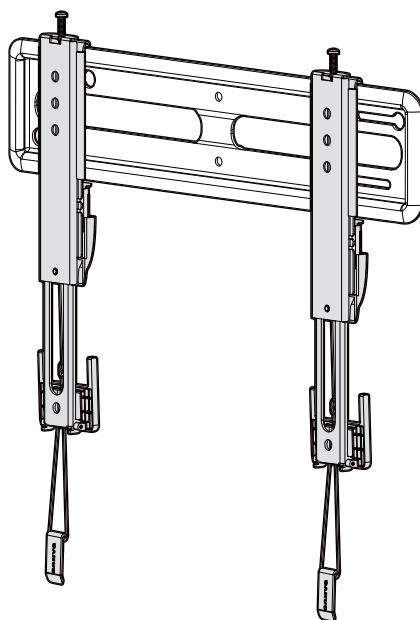
この度は、VML5 の壁掛金具をお買い上げ頂きましてありがとうございます。
VML5 は 40V 型～ 50V 型の薄型テレビの取付用です。
ご使用前に、この「取扱説明書」をよくお読みの上、正しくご使用ください。
お読みになったあとは大切に保存してください。

本製品をご利用になるお客様へ

本製品の取り付けには、特別な技術や確実な作業が必要となります。必ず、販売店や工事店に依頼して、安全性に十分考慮して確実な取り付けを行って下さい。

販売店様・工事業者様へ

薄型テレビの取り付けには特別な技術が必要です。設置の際は取扱説明書をよくご覧の上、設置を行って下さい。取り付け不備や、取り扱い不備による事故や損傷については、当社では一切の責任を負いません。



Sanus Systems 輸入総代理店・発売元

NETWORK JAPAN

お問い合わせ・ご購入は、弊社正規販売店又は弊社営業窓口へ

〒 559-0031 大阪市住之江区南港東 1 丁目 2 - 1 6

ネットワークジャパン株式会社 TEL 06-6612-2008 FAX 06-6612-2050

<http://www.network-jpn.com/> E-mail : info@network-jpn.com

安全上のご注意

お使いになる人や他人への危害、物的な損害を未然に防ぐため、必ずお守り頂きたい事項を説明します。表示内容を見逃して誤った使い方をしたときに生じる危害や物的損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。



警告 人が死亡又は重傷を負う恐れがある内容を示します。



注意 人がけがをしたり財産に損害を受ける恐れがある内容を示します。

お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。



人が死亡又は重傷を負う恐れがある内容を示します。(してはいけない禁止内容)



人がけがをしたり財産に損害を受ける恐れがある内容を示します。(実行すべき強制内容)



人がけがをしたり財産に損害を受ける恐れがある内容を示します。(気をつける内容)

警告



禁止

壁の強度は少なくとも薄型テレビと金具を合わせた重量の5倍の強度に耐える場所が必要です。VML5 壁掛金具は、40V 型～50V 型で、総重量 34kg 以下の液晶等の薄型テレビを、木柱又はコンクリート製の壁面に固定するためのものです。

これらの最大耐荷重以上の薄型テレビの取り付けには絶対使用しないで下さい。又、木製やコンクリート以外の（鉄骨製などの）壁面には取り付け出来ません。

この指定を守らないと、薄型テレビが落下して、けがをしたり、テレビが破損する原因となります。



工事専門業者以外は取り付け工事を行わないで下さい。
専門業者以外が工事を行うと、工事の不備により落下してけがの原因になります。



取り付け強度は、安全のため十分余裕を取って下さい。
強度が不足すると落下して死亡やけがの原因になります。



荷重に耐えられない場所には取り付けしないで下さい。
強度の弱い壁や平面でなかったり垂直でない壁に取り付けると落下してけがの原因になります。



湿気やほこりの多いところや油煙や湯気の当たる場所や屋外には取り付けしないで下さい。
又、エアコンの上や下にテレビを取り付けしないで下さい。
テレビに悪影響をあたえたり、火災・感電の原因になります。



禁止

組み立ての手順を守り、指定の箇所はすべて確実にネジ止めして下さい。
ネジ山の破損したネジや、さびたネジは絶対使わないで下さい。
指定を守らないとテレビの取り付け後に破損や落下等、思わぬ事故の原因となることがあります。



テレビの取り付けや取り外し作業は2人以上で行って下さい。
テレビが落下して、けがをしたりテレビが破損する原因となることがあります。



禁止

本製品には小さな部品が同梱しており、誤って飲み込むと窒息の危険性がありますので、お子様の近くにこのような部品を置かないで下さい。
又、壁掛け金具の組み立ての際は、危険ですからお子様を周囲に近づけないで下さい。



取り付け作業の際は、テレビや周辺機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いて下さい。
感電の原因になったり、テレビや周辺機器を破損する恐れがあります。



組み立てる前に、すべての部品が揃っており、破損していないことを確認してください。
足りない部品又は破損している部品のある場合は、ネットワークジャパン株式会社に連絡して下さい。
尚、破損した部品は、絶対にご使用しないで下さい。



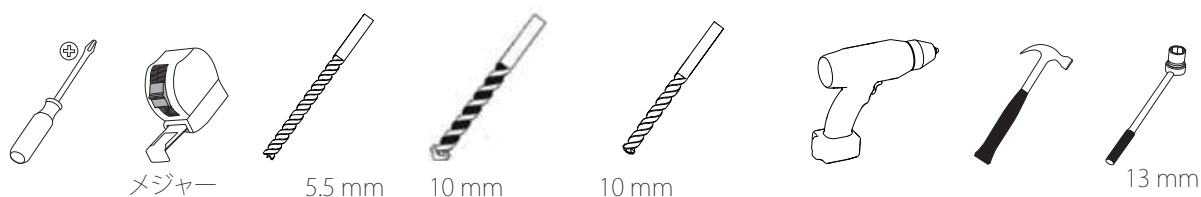
壁掛け金具を壁面に固定するネジは下記の部品表に記載してありますが、壁面の材質や強度によっては不適合な場合がありますので、その場合は市販の適切なネジを使って下さい。



ネットワークジャパン株式会社は、不適切な組み立てや、使用により発生したけが等の傷害や、物品の損傷に対する責任を一切負いません。

重要 本製品を使用する前に、この説明書をよくお読み下さい。又この説明書は、大切に保管して下さい。

必要な工具類



仕様

耐荷重 : 34kg (テレビと付属品を含みます) ※左記を超過しないようにして下さい。
(※耐荷重とは、本金具に搭載できるテレビの重量です。ご利用の壁面の耐用重量ではありません。)

適応テレビサイズ: 40V 型～50V 型

注意: ケガをしたり、壁面を破損しないように次の点に注意してください。

- ★ 用途以外の目的で本製品を使用しないでください。
- ★ ご利用の壁面は、モニターとマウントの総重量の5倍を支えられなければなりません。
- ★ 本製品は金属製柱の壁での使用には適していません。
- ★ ここに記載される内容が解らない場合、または製品の取り付け、組み立て、使用について質問がある場合は、ネットワークジャパン (株)、又は認定業者にお問い合わせください。
- ★ 添付の部品はすべて使用する必要はありません。ご利用の環境に合わせて必要な部品をお選びください。また、ご利用の環境によっては別途、部品をご用意いただく必要があります。

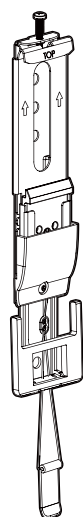
STEP1 ブラケットをテレビに取り付ける

STEP 1 で使用する部品類

⚠ 警告 : 本製品には小さい部品が付属しており、誤って飲み込むと窒息の危険性があります。

組み立てを始める前に、部品がすべてそろっており、破損していないことを確認してください。足りない部品または破損している部品がある場合は、ネットワークジャパン (株) までご連絡ください。破損した部品は絶対にご使用にならないでください。

注記: M4、M5、M6、又は M8 は直径を指し、mm は「M# X ##mm」の表記において、ネジの長さを指します。 付属の部品をすべてを使用するわけではありません。



TV ブラケット
01 x 2

TV 取付ネジ類



M4 x 20mm

02 x 4



M5 x 20mm

03 x 4



M6 x 25mm

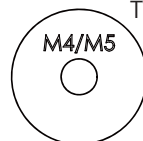
04 x 4



M8 x 25mm

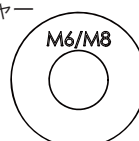
05 x 4

TV 取付ワッシャー



M4/M5

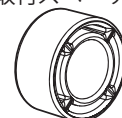
06 x 4



M6/M8

07 x 4

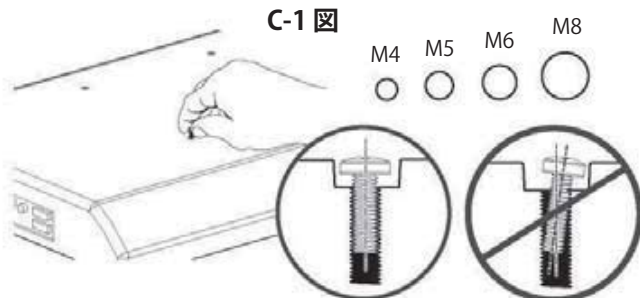
TV 取付スペーサー



08 x 4

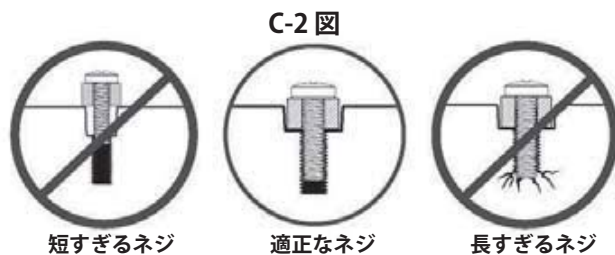
1-1 テレビ取付用ネジの口径と長さの選択

お使いのテレビの形状によって、使用する部品が決まります。テレビの背面のネジ穴に手でネジを入れて、適合する正しいネジの直径 (M4、M5、M6 又は M8) を見つけます。



注意 ご使用のテレビに対して、ネジやスペーサーを組み合わせて、適正なネジ山のかみ合わせを確認して下さい。

首下の短いネジは、テレビを十分保持できず、首下の長すぎるネジは、テレビの内部に損傷を与える恐れがあります。



注意 ケガをしたり、壁面を破損しないように注意してください。

同梱のネジ以外の長さのネジが必要な場合には、別途市販のネジを各自で用意ください。

1-2 スペーサーの取付位置

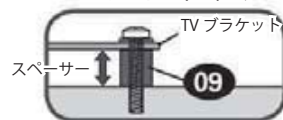
付属のスペーサーを使う場合は下図の取付方法を確認し、状況にあった取付方法を選択してください。(TV 背面の形状や状況により、TV ブラケット取付時のスペーサーの位置を選択します。)

a: スペーサーを TV ブラケットの上に置く



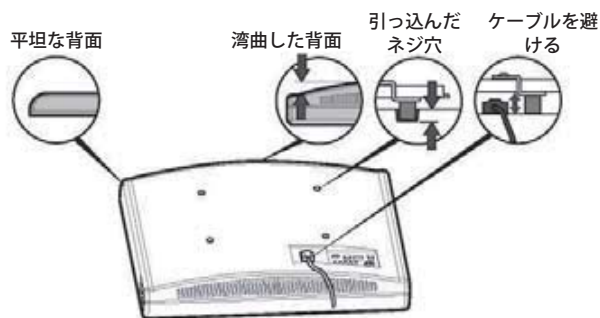
(ネジの長さを調整する場合)

b: スペーサーを TV ブラケットの下に置く



(テレビの背面が湾曲していたり、障害物があったり、取付穴が引込んである等の場合)

D-1 図

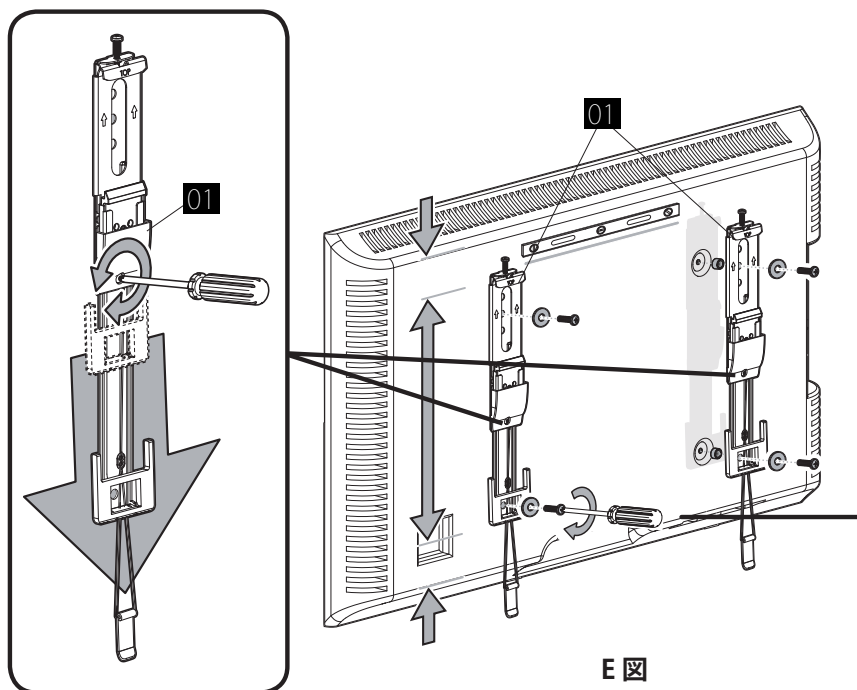


D-2 図

1-3

1) 下図の様に TV ブラケット [01] を、テレビ背面の穴位置に合わせて中心に置きます。二つのブラケットは水平な位置関係にして下さい。

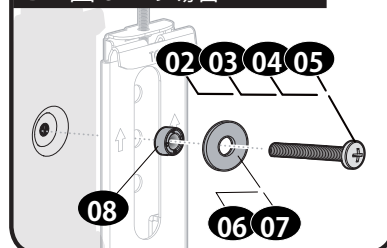
2) 前項 1-1 で選択したネジと、対応するワッシャー及びスペーサーを組み合わせて、二つのブラケットをテレビに取り付けます。



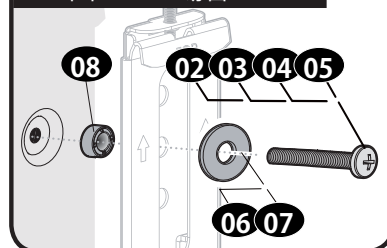
E 図

テレビ側の上下のネジ穴と間隔が合わない場合には、上図のようにネジを緩め、ブラケットを引き出し調整してください。

D-1図 a: の場合



D-1図 b: の場合



STEP2 壁掛金具を壁面に取付ける

2本の木柱壁に取り付ける場合は、5ページのSTEP 2Aに従って固定します。 1本の木柱壁に取り付ける場合は、8ページのSTEP 2Bに従って固定します。 コンクリート壁に取り付ける場合は、10ページのSTEP 2Cに従って固定します。

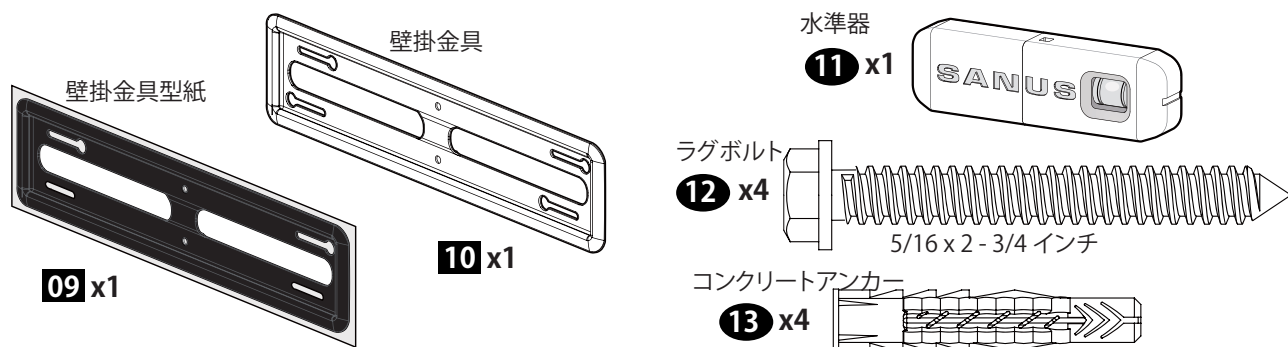
STEP 2で使用する部品類

警告 : 本製品には小さい部品が付属しており、誤って飲み込むと窒息の危険性があります。

組み立てを始める前に、部品がすべてそろっており、破損していないことを確認してください。足りない部品または破損している部品がある場合は、ネットワークジャパン（株）までご連絡ください。 破損した部品は絶対に使用しないでください。

警告 : 水準器には磁石が含まれています。

ペースメーカーや植込み型除細動器（ICD）等の移植医療デバイスを使用中の場合、磁場がこれらの機器の動作に影響を与えて、重傷を負ったり死亡を招く恐れがあります。 もしお客様が、これらの移植された医療機器をお持ちの場合は、お使いのデバイスと磁石との間を少なくとも13センチ以上離して下さい。 又この器具を使用される前に、かかりつけの医師や医療専門家にご相談ください。



注記 : 付属の部品をすべて使用するわけではありません。

参考 : 水準器 [12] は、水平度を確認する為にお使い下さい。

なお、水準器 [12] は、海外住宅向けに内蔵の磁石で釘などの金属を探知して、柱位置を見つける、下地センサー機能もありますが、国内では壁面構造が異なるのでこの機能はご使用頂けません。 下地センサーは別途市販品をお求めください。

STEP 2A 木柱壁面への取り付け（2本柱の場合）

警告 : ケガをしたり、壁面を破損しないように注意してください。

- ★ 壁面を覆う石膏ボードや壁面パネル・壁紙等の厚みは、16 mm以下にしてください。
- ★ 金具を取付ける柱の寸法は、取付ける面の幅38mm奥行き89mm以上が必要です。
- ★ 柱と柱の間隔は、406mm以上が必要です。
- ★ 柱の中心位置は、必ず確認してください。柱の寸法は必ずしも規格のサイズではありません。

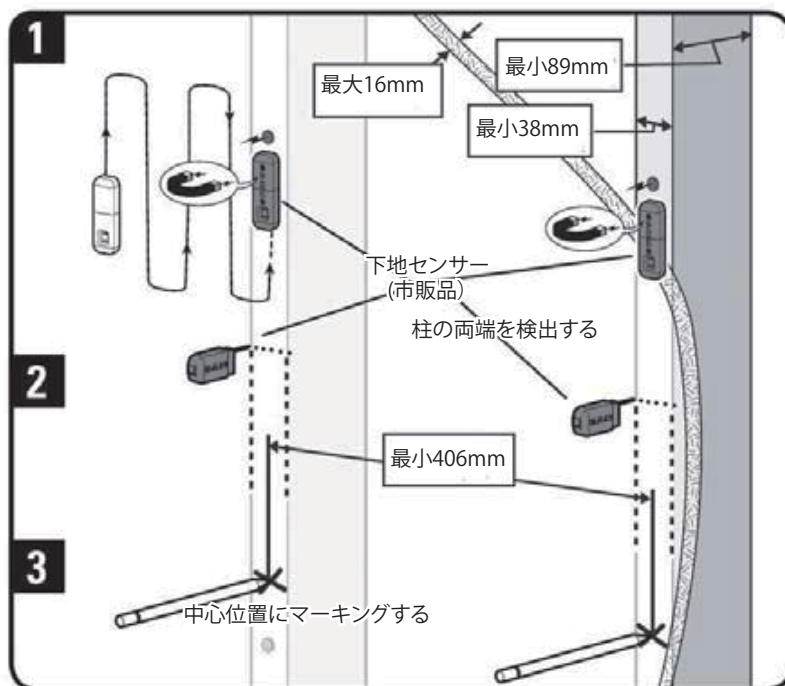
注記 : 下地センサー（木柱センサー）は壁の中にある下地材をセンサーで感知して知らせてくれるものです。下記の1～3は、下地センサーを用いた柱位置検出方法の一例です。詳細はご使用の下地センサーの取扱説明書に従って下さい。

1. 下地センサーや、千枚通しや、細い釘などを使って、右図の様に柱の位置を確認します。
2. 下地センサーを左右に動かすと、柱の端を検知するので、マーキングします。
3. 二つのマーキング（両端）から柱の中心位置にマーキングを付けます。

警告 : 水準器[12]には、磁石が含まれています。

ペースメーカーや植込み型除細動器（ICD）等の移植医療デバイスを使用中の場合、磁場がこれらの機器の動作に影響を与えて、重傷を負ったり死亡を招く恐れがあります。

もしお客様が、これらの移植された医療機器をお持ちの場合は、お使いのデバイスと磁石との間を少なくとも13センチ以上離して下さい。又この器具を使用される前に、かかりつけの医師や医療専門家にご相談ください。

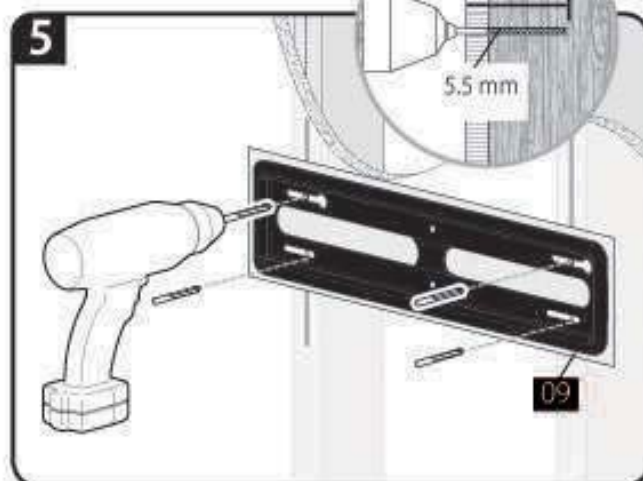
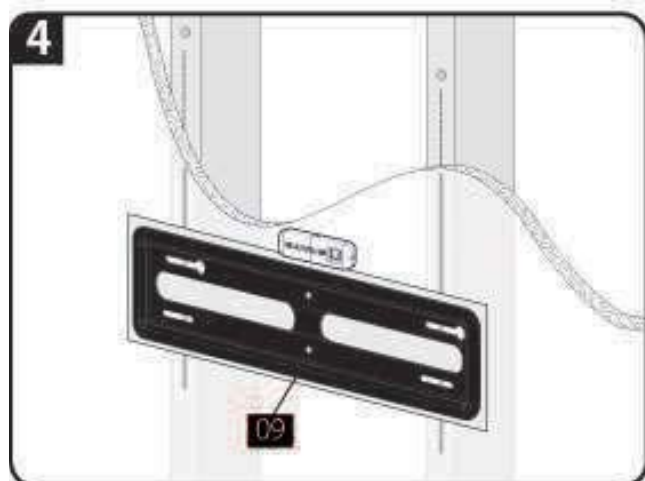


4. 壁掛金具の型紙[9]をご希望の高さで、且つ穴位置は柱の中心線上に配置します。型紙[9]を水準器[11]で水平度を確認してから、テープで壁面に仮に貼り付けます。

注記：型紙 [9] の取り付け位置を決定する際に、5 ページの下地センサーの使い方の説明を参照して下さい。

重要：マーキングして下穴を開ける時は、必ず柱の中心線上でなければなりません。

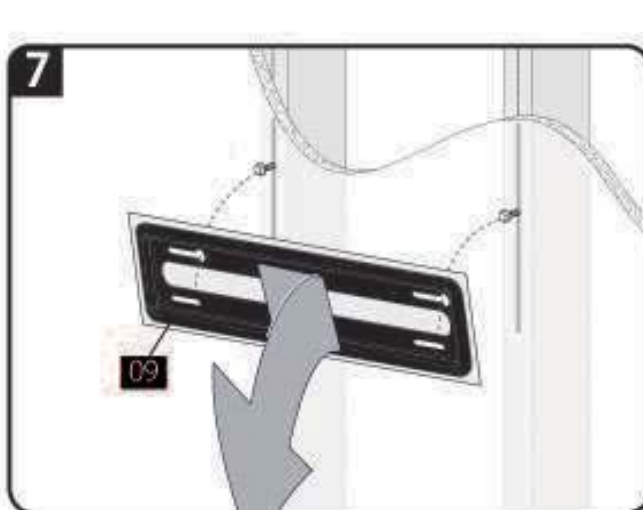
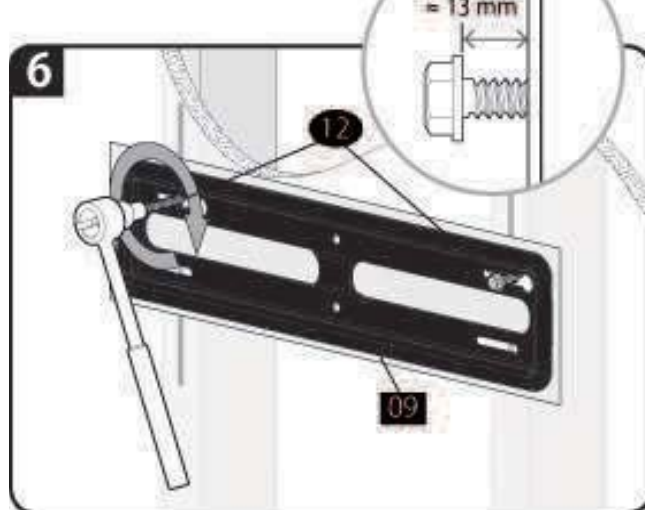
5. 下穴は、5.5mm 径のドリルビットを使って、必ず75 mmの深さに穴を4個開けます。



6. 上部の2つのネジ穴に、ラグボルト [12] を、壁面から 13mm のスペースを残して、仮に取り付けます。

注記：この 13mm のスペースは、型紙 [9] を取り除いたり、壁掛金具 [10] をラグボルト [12] にぶら下げたりする為のものです。

7. 型紙[9]を取り除きます。

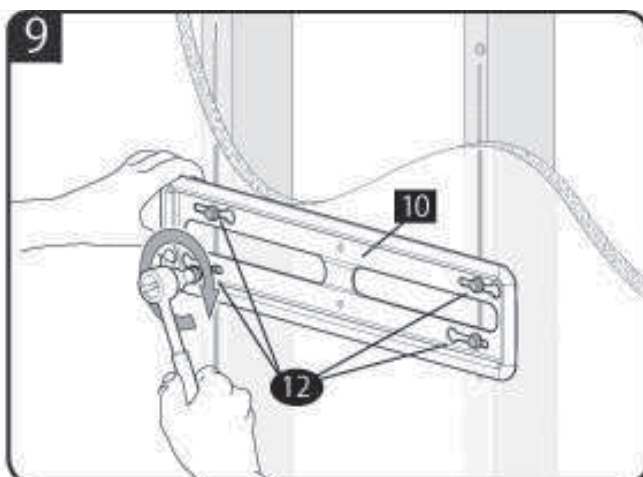
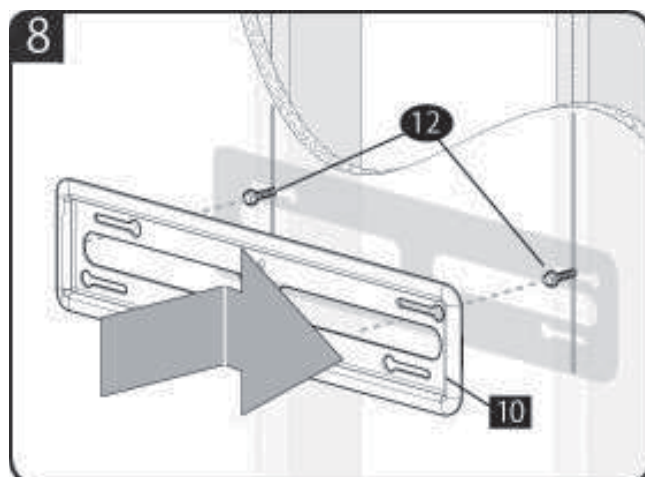


8. 壁掛金具 [10] の上部のネジ穴を、仮取り付けしたラグボルト [12] の上にぶら下げます。

9. 下部の2つのネジ穴に、ラグボルト [12] で壁掛金具 [10] を固定します。次に上下4個のラグボルト [12] を壁掛金具 [10] にしっかりと引っ張り込まれるまで締めつけて、壁掛金具 [10] を固定します。

注記：この 13mm のスペースは、型紙 [9] を取り除いたり、壁掛金具 [10] をラグボルト [12] にぶら下げたりする為のものです。固定位置が決まりましたらしっかりと締め付けてください。

注意：適切に作業しないと、ラグボルトでしっかりと支えることができません。又、ラグボルト [17] を締めつけ過ぎないようにします。



STEP 2B

木柱壁面への取り付け（1本柱の場合）

警告 : ケガをしたり、壁面を破損しないように注意してください。

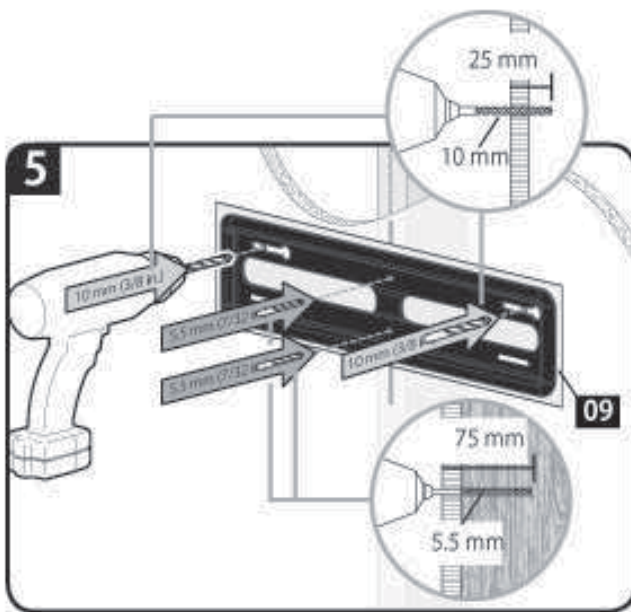
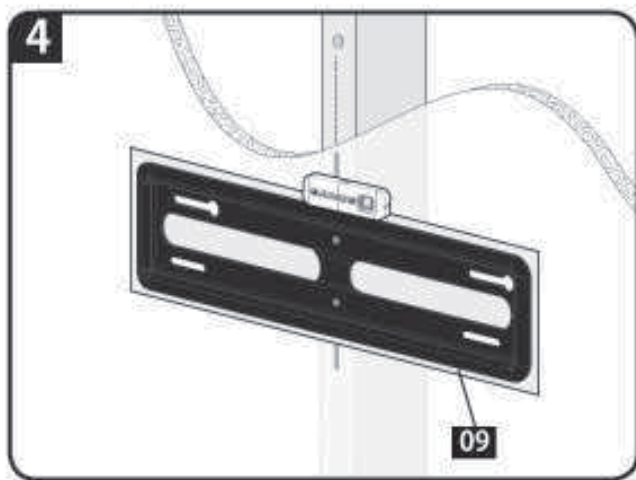
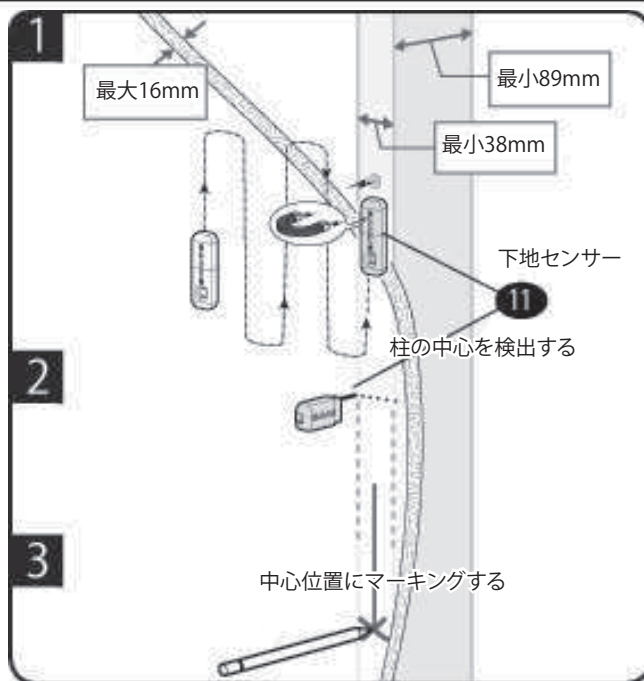
- ★ 壁面を覆う石膏ボードや壁面パネル・壁紙等の厚みは、16 mm以下にしてください。
- ★ 金具を取付ける柱の寸法は、取付ける面の幅38mm奥行き89 mm以上が必要です。
- ★ 柱と柱の間隔は、406mm以上が必要です。
- ★ 柱の中心位置は、必ず確認してください。柱の寸法は必ずしも規格のサイズではありません。

注記 : 下地センサー（木柱センサー）は壁の中にある下地材をセンサーで感知して知らせてくれるものです。下記の1～3は、下地センサーを用いた柱位置検出方法の一例です。詳細はご使用の下地センサーの取扱説明書に従ってください。

1. 下地センサーや、千枚通しや、細い釘などを使って、右図の様に柱の位置を確認します。
2. 下地センサーを左右に動かすと、柱の端を検知するので、マーキングします。
3. 二つのマーキング（両端）から柱の中心位置にマーキングを付けます。

警告 : 水準器には、磁石が含まれています。

ペースメーカーや植込み型除細動器（ICD）等の移植医療デバイスを使用中の場合、磁場がこれらの機器の動作に影響を与えて、重傷を負ったり死亡を招く恐れがあります。もしお客様が、これらの移植された医療機器をお持ちの場合は、お使いのデバイスと磁石との間を少なくとも13センチ以上離して下さい。又この器具を使用される前に、かかりつけの医師や医療専門家にご相談ください。



4. 壁掛金具の型紙[9]をご希望の高さで、且つ穴位置は柱の中心線上に配置します。型紙[9]を水準器[11]で水平度を確認してから、テープで壁面に仮に貼り付けます。

注記 : 型紙 [9] の取り付け位置を決定する際に、5 ページの下地センサーの使い方の説明を参照して下さい。

重要 : マーキングして下穴を開ける時は、必ず柱の中心線上でなければなりません。

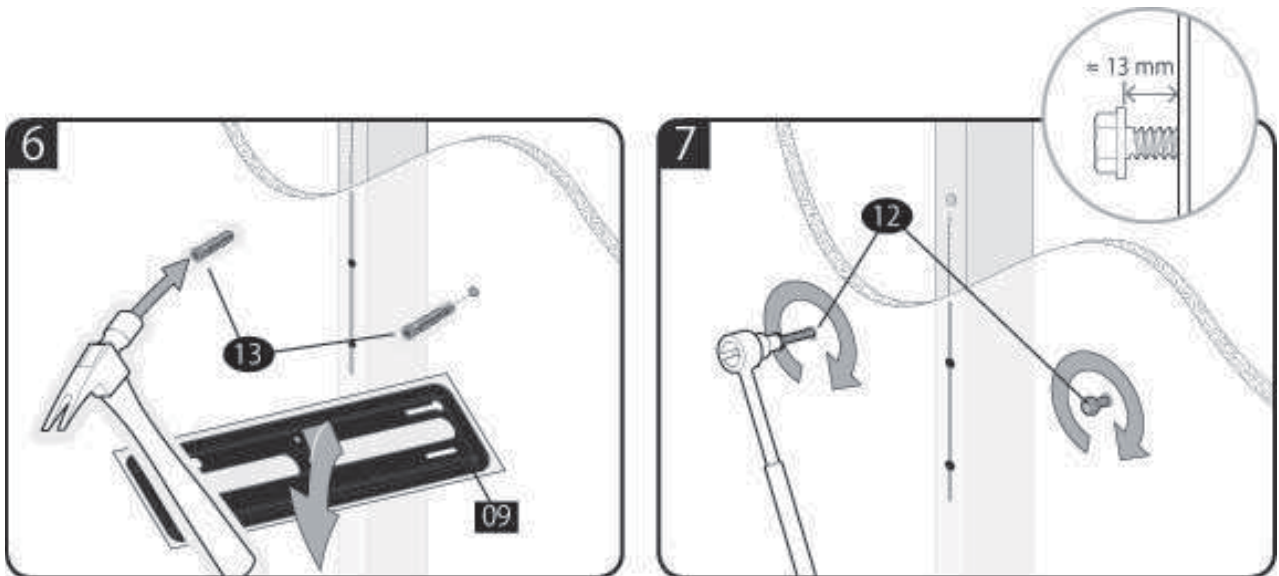
5. 柱の下穴は、5.5mm 径のドリルビットを使って、必ず75 mmの深さに穴を2個開けます。（壁面を覆うドライウォール等がある場合には、安定のためにさらに左右にゆれ止め用としてコンクリートアンカーを用いて固定します。この場合は、追加で、10mm 径のドリルビットを使って、25 mm の深さに穴を4個開けます。）

警告 : 上記のような場合、木柱を用いずに壁面を覆う石膏ボードやドライウォール等だけでの固定はできません。

6. 壁面を覆うドライウォール等などにコンクリートアンカー用のした穴をあけたときは、型紙 [9] を取り除き、この穴にコンクリートアンカー [13] を打ち込みます。

7. 2 つのコンクリートアンカー [13] に、ラグボルト [12] を、壁面から 13mm のスペースを残して、仮に取り付けます。

注記：この 13mm のスペースは、型紙 [9] を取り除いたり、壁掛金具 [10] をラグボルト [12] にぶら下げたりする為のものです。

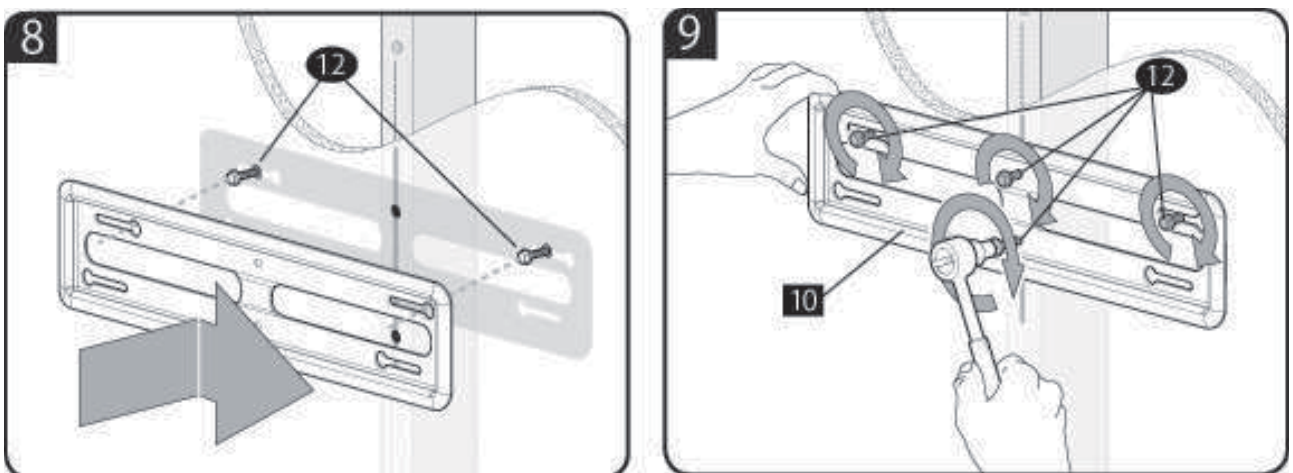


8. 壁掛金具 [10] の上部のネジ穴を、仮取付けしたラグボルト [12] の上にぶら下げます。

9. 木柱の 2 つのネジ穴に、ラグボルト [12] でしっかりと引っ張り込まれるまで締めつけて、壁掛金具 [10] を固定します。 次に左右 2 個のラグボルト [12] を壁掛金具 [10] に締めつけて固定します。

注記：最初の本柱のラグボルト [12] を締め付ける時、壁掛金具 [11] が所定の位置からずれないように、支えて下さい。

注意：適切に作業しないと、ラグボルトでしっかりと支えることができません。又、ラグボルト [17] を締めつけ過ぎないようにします。



STEP 2C

コンクリート又はコンクリートブロック壁面への取り付け

⚠ 警告 : ケガをしたり、壁面を破損しないように注意してください。

★ 壁掛金具[10] は、直接コンクリート表面に取り付けます。

★ コンクリートブロックの最小のサイズは、203 X203 X406mm です。

★ コンクリートの最小厚さは、203mm です。

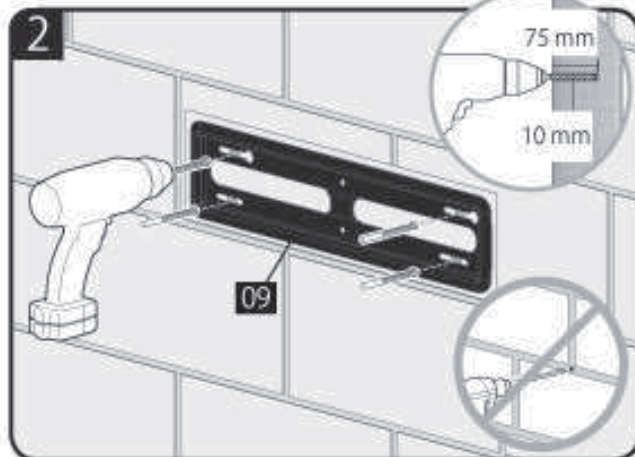
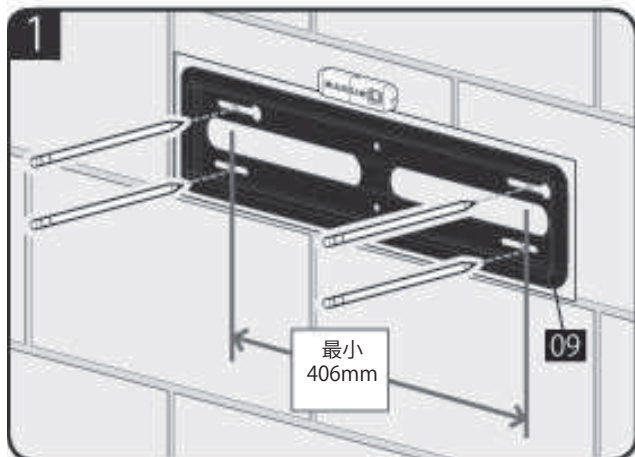
★ 水平方向の取付間隔は、最小406mm です。

1. 壁面の希望の高さに、壁掛金具の型紙[9] を配置します。型紙は水準器[11] で水平を確認してから、穴位置に4箇所のマーキングを付けます。

注記 : 型紙[9] の取り付け位置を決定する際に、5 ページの下地センサーの説明を参照して下さい。

2. 下穴は、10mm 径のドリルビットを使って、必ず75mm の深さに穴を4 個開けます。

重要 : 取り付け強度が保てないので、ブロックの間のモルタル部には、ドリルで絶対穴を開けないで下さい

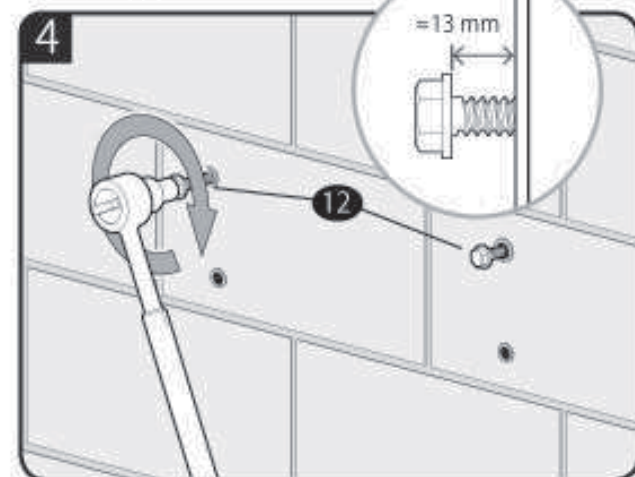
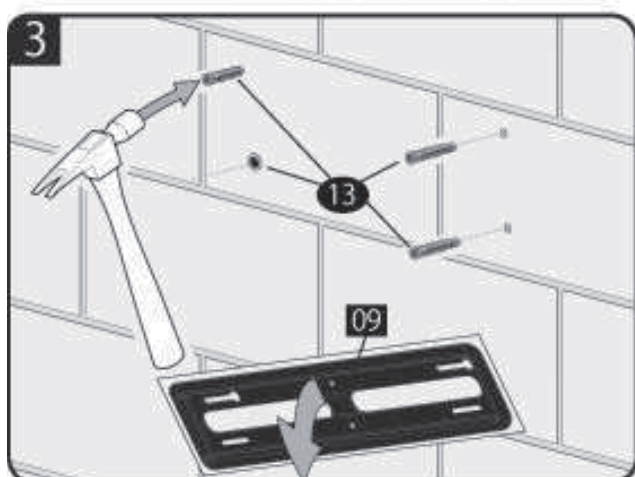


3. 型紙[10]を取り除いてから、4個のアンカー[14]を壁面に挿入します。

重要 : アンカー[14]は、コンクリート壁面と同一平面に取り付いている事を確認します。

4. 上部の2つのネジに、ラグボルト[13]を、壁面から13mmのスペースを残して、仮に取り付けます。

注記 : このスペースは、壁掛金具[11]をラグボルト[13]にぶら下げたりする為のものです。

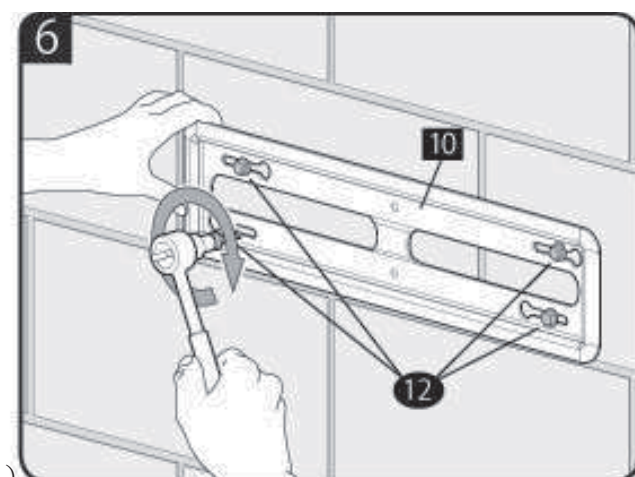
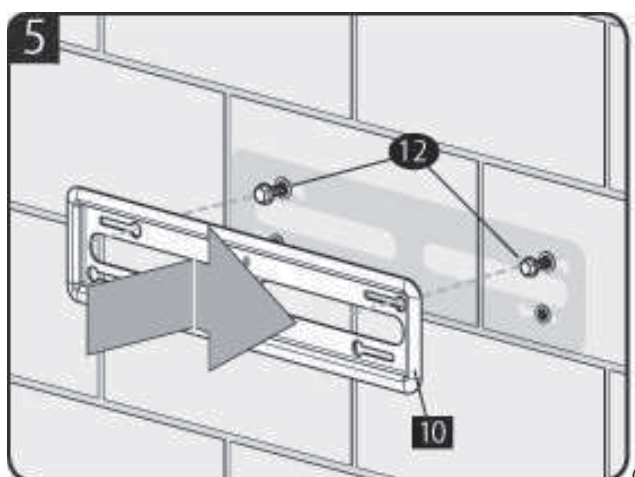


5. 壁掛金具[10]の上部のネジ穴を、ラグボルト[13]の上にぶら下げます。

6. 下部の2つのネジ穴の箇所に、ラグボルト[13]で壁掛金具[10]を取り付けます。次に上下4個のラグボルト[13]を壁掛金具[11]にしっかりと引っ張り込まれるまで締めつけて、壁掛金具[10]を固定します。

注記 : 最初のラグボルト[13]を締め付ける時、壁掛金具[10]が所定の位置からずれないように、支えて下さい。

注意 : 適切に作業しないと、ラグボルト[13]でしっかりと支えることができません。又、ラグボルト[13]を締めつけ過ぎないようにします。



STEP3 テレビを壁掛金具に取り付ける



注意：この作業は重量物を取り扱うので、二人以上で行って下さい。

1. 左右のテレビブラケット [01] を壁掛金具 [10] の上部に、図の様に引っかけます。

注記：左右のテレビブラケット [01] は、壁掛金具 [10] に沿って好みの位置にスライド出来ます。

2. テレビを左右にスライドして壁面の所定の位置に置きます。

3. テレビの底面を壁面に向けて押し付けると、安全用留め金が所定の位置でテレビをロックします。 正しくロックすれば「カチッ」という音がします。

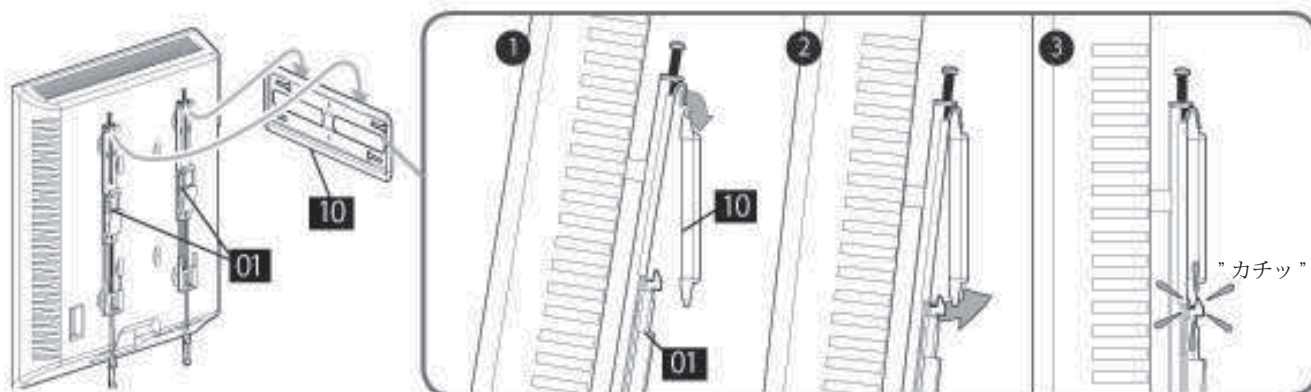
参考：安全用留め具は、解除（リリース）コードを真下に引っ張るとロック解除となります。



警告

：ケガをしたり、壁面を破損しないように注意してください。

作業を終了するときは、テレビブラケットがロック状態で、テレビが壁掛金具[10]に安定して固定されている事を確認してください。



テレビ背面の作業のために・・・

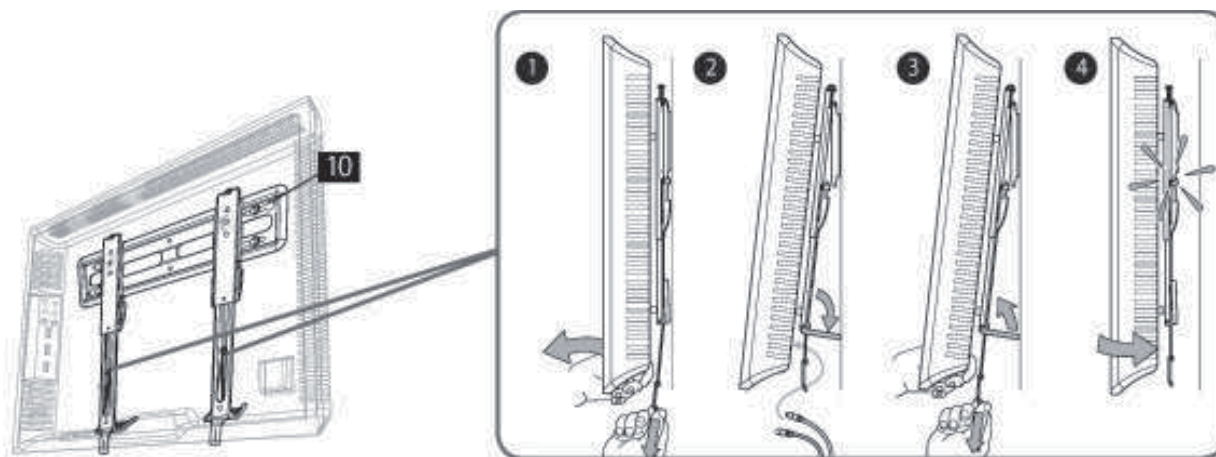
ケーブルなどの脱着作業など、テレビの背面にスペースを設けたいときは、下記の作業を行ってください。

1. リリースタブを下に引き、ロック解除を行いスタンドを起こします。

2. TV 背面の作業を行います。

3. スタンドを手で押し上げながら、リリースタブを引き TV を元に戻します。

4. テレビの底面を壁面に向けて押し付けると、安全用留め金が所定の位置でテレビをロックします。 正しくロックすれば「カチッ」という音がします。

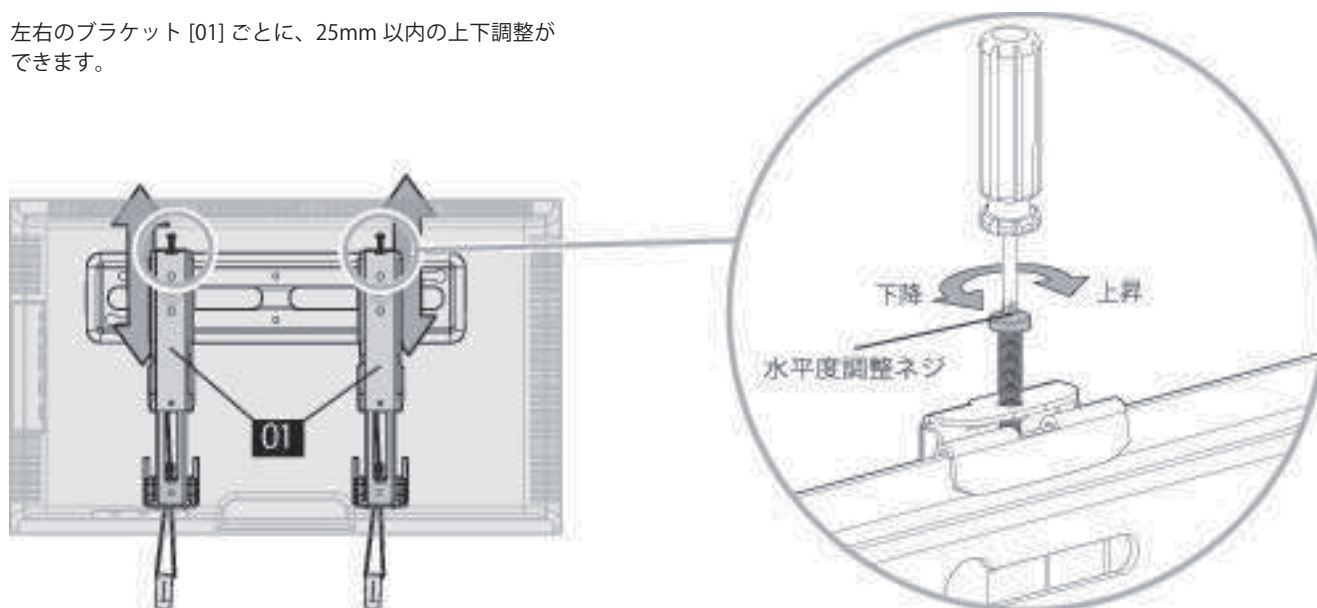


角度調整など

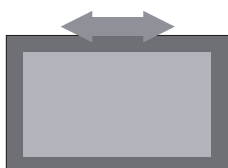
水平度調整



左右のブラケット [01] ごとに、25mm 以内の上下調整ができます。



横方向移動

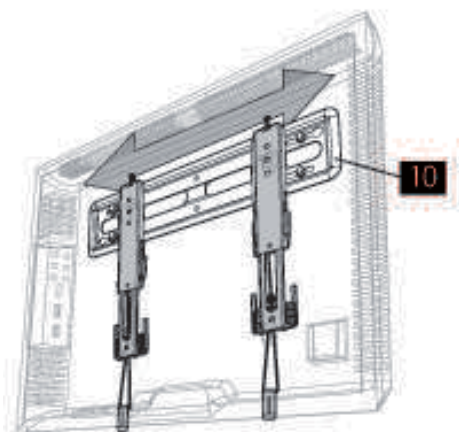


テレビの取り外し



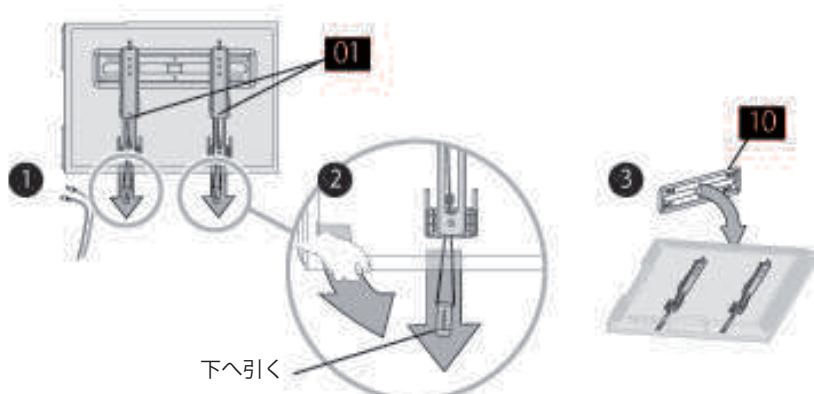
注意：この作業は重量物を取り扱うので、二人以上で行って下さい。

テレビを壁掛金具 [10] に沿って移動したい位置まで左右にスライドします。



注意：この作業は重量物を取り扱うので、二人以上で行って下さい。

1. テレビから全てのケーブル類を外します。
2. テレビを壁掛金具からのロックを解除する為に、両方の解除（リリース）コードを下方に、且つテレビ向き（壁面から離れる）の方向に引きます。
3. テレビの底面を壁面から十分引き離します。テレビを上方向に持ち上げて壁掛金具 [10] から離します。



4. テレビを再度ぶら下げる前に、解除（リリース）コードを真っ直ぐに引っ張って、安全用留め金をロック動作可能な位置にセットします。

外觀圖

単位：mm

